

<絵本を届ける運動>

カンボジアやラオスは、長年の内戦や経済的問題などから子どもの本が絶対的に不足しています。ラオスでは、他の資料でも触れたように、図書の出版点数は年間数十点ほど。子どもの本は十数点。絵本を届ける運動とは、そうした現状への補助的な対応策として日本のNGOが推進している事業。

具体的には、下図のように日本で出版されている日本語の絵本にカンボジア語、ラオス語の翻訳シールを貼り、子どもたちに届ける、と言うものです。翻訳シールの準備されている絵本は「ぐりとぐら」「おおきなかぶ」など日本の子どもたちにも人気のある素敵な作品ばかり。それだけにカンボジア、ラオスでも日本から届けられる絵本は、とても喜ばれています。

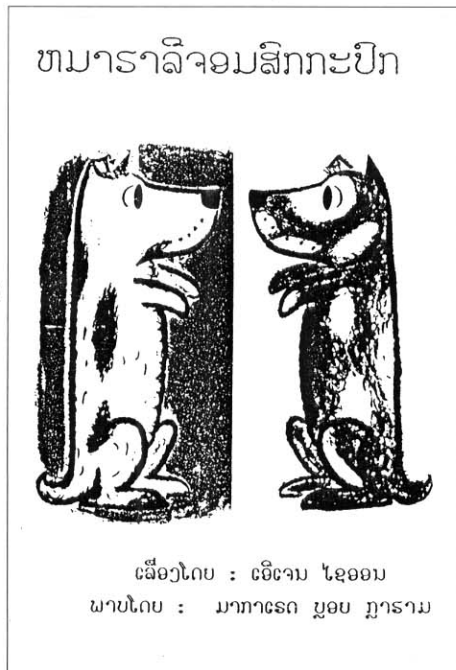


⇐ 日本語の絵本が
ラオス語の絵本へ変身 ⇐

ຫາມາຣາລີຈອມສິກກະປົກ

ເສືອງໂດຍ : ຜິວຈານ ໄຊອອນ
ພາບໂດຍ : ມາກາເຣດ ນູອນ ກູາຣາມ

↑
(ラオス語のシール)
翻訳シールを切り貼る



翻訳シール貼りの作業は、とても楽しいものです。日本語で書かれた絵本を読み、ラオス語のシールを貼る。ラオスの子どもたちは、このページはどんな気持ちで読むのかな、と思ったりしながら1冊の絵本を貼り終えると、間接的にラオスやカンボジアの子どもたちに絵本の読み聞かせをしているような気分になります。1冊の絵本を仲立ちとして、アジアの子どもたちと絵本の楽しさを共有できる、そんな喜びもある運動と言えるでしょう。